



中国人はマナーの悪い人たちなのか



コラムニスト・アジアソウオッチャー
須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。

羽田からの深夜便で早朝に着いた香港の空港。眠気が襲うボーツとした頭でベンチに腰掛けてみると、横から突然、人の足が伸びてきて驚いた。慌てて見ると、何と中国人の若くてきれいな女性が、席3つ分を使って眠りに就こうとしているではないか。思わず「できれば靴を脱いで頂けませんか？」と言いたかったが、「こんなセリフをヨーロッパ人が聞いたらどんな誤解を受けるか」と逡巡し、そのまま席を離れた。日本でも若い女性が電車で眠り込んでいる姿をよく見かけ、「そんなことをしたら危険な国もあるのにな」などと要らぬことを考えることがあるが、まさか男が座っている横に堂々と寝そべったりはしないだろう。昨年250万人の中国人が訪れた日本では、にわかには中国人観光客ブ

ームと言えるものが起きている。「爆買い」と呼ばれる大量買いで潤う商店などが盛り上がっている感があるが、同時にそのマナーの悪さを指摘する報道も目立ってきている。確かに彼らは集団で動くことが多く、とにかく目立つ。なぜあんなに大きな声で話すのかは、「研究テーマとして成り立つのではないか」と思うことさえある。一方、路上で子供に押しつこをさせるなどは中国国内で見られる光景ではあるが、特に香港で叩かれていた。実は香港には、観光客が使えるトイレが歴史的な要因で少ないという事情があるのだが、そこに触れる報道は見たことがない。マスコミ報道はその一部を切り取り、拡大する傾向にあるのも事実である。「なぜ中国人はマナーが悪いのか」と聞かれるたびに、「マナーの悪い

人もいる」と答えるようにしている。マナーというのは、もともとの習慣と育ってきた環境に大いに関係があると睨んでいるのだが、中国人の場合、文革をどのように経験しているか、その後の高度成長をどのように生きてきたのかによる違いが大きい。人口が多くパイが少なければ人を押しつけるを得ない。そんな環境で日々暮らすと、マナーを考える余裕などないとも言える。逆に、現在の若者は日本人とあまり変わらない行動をとる人も多く、環境が変化していることを実感する。

また「中国人が周囲に対して配慮できない」とは思えない。身内や友人に対しては実にきめ細かな配慮ができる人々である。中国人の友人に紹介されて初めて会う人を訪ねると、「何でも全てしてくれる状態」となり、「東京で私はこんな接待はとてもしない」と思うことがしばしば。筆者への配慮というより紹介者に対する応対だと考えられるが、それは凄まじい。裏を返せば、「友人であれば配慮するが、知らない人には配慮しない社会」とも言える。「知らない人を含め」人を信じる、信じられる「環境になれば、このようなことも少なくなると思うのだが、現実には厳しい。日本人が自らをマナーのある人々であると思うのであれば、「もう少し相手を知る」努力をし、その上で迷惑なものは迷惑だと言ってみたらいい。相手がカネをたくさん落とすお客さんだから言えない、というのであれば、それこそ如何なものか。中国人も実は、日本人の本音を聞いてみたいと思っているかもしれない。